

第 52 回（令和 6 年度第 1 回） 暁木会・KTC・神戸大学意見交換会 議事録

■日 時 : 2024 年 7 月 11 日(木) 17 時 30 分～19 時 30 分

■場 所 : 神戸大学生協 「レストランさくら」

■出席者 : 神戸大学 中山先生、竹山先生、橘先生、三木先生、齋藤先生、瀬木先生、
高山先生

暁木会 黒澤会長、坪本副会長、船越幹事、中田幹事、後藤幹事、奥西幹事、
谷口幹事、吉牟田幹事

KTC 濱村理事、室井監事

■議 事 :

1 暁木会会長あいさつ

黒澤暁木会会長よりあいさつ

2 KTC 副理事長あいさつ

濱村 KTC 理事よりあいさつ

3 市民工学専攻長あいさつ

中山市民工学専攻長よりあいさつ

4 学術振興基金助成金の贈呈

黒澤会長より、中山専攻長に助成金を贈呈

5 自己紹介

<意見交換会>

6 暁木会からの報告

○令和 5 年度暁木会総会概要・振り返り(資料1)

(暁木会)

- ・ コロナ禍前と同様の形式で開催した。懇親会ではアルコールも提供し、交流が図られていたと思われる。
- ・ 総会の参加者数はコロナ禍前に比べて減少した。参加者の増加に向けて開催方法等を検討していきたい。

(大学)

- ・ コロナ禍で活動できない期間があったため、学生の中で暁木会の存在感が薄まり、総会参加者が減ったのではないかと。
- ・ 教員から参加を呼びかけた研究室は、総会への参加者が多かった。
- ・ あくまで自由参加の前提だが、声かけしていく方がよいかもしれない。

(KTC)

- ・ こちらから学生に近づけば反応はある。

○主な年間行事予定(資料2)

(暁木会)

- ・ 例年ベースの行事を予定している。

(大学)

- ・ 次回 10/17 の意見交換会も、本日の会場で行う予定。
- ・ 1/16 の意見交換会は、暁木会の方で会場予約をお願いします。(学外)

○大学3回生への業界説明会の実施報告(資料3)

- ・ (「8 神戸大学からの報告」に意見交換内容を記載)

○会費会員の状況等(資料4)

(大学)

- ・ 暁木会活動のPRチラシは、フットサル大会の写真を大きく拡大する等、デザインを見直しが方がよいと思う。

(暁木会)

- ・ 文字が多く見にくいいため、PRチラシのデザインは見直したい。

○暁木会ニュースの発行(資料5)

(暁木会)

- ・ 執筆依頼は完了しており、8月末に最終原稿完成、9月発行の予定で進めている。

○R6年度 暁木会活動(案)(資料6)

(大学)

- ・ 暁木会のPR活動として、学生コンペによる暁木会のロゴマーク製作はどうか。
- ・ 助成金で整備した施設に暁木会ロゴシールを貼り、身近なところで学生に見てもらうことでPRになるのではないか。

(暁木会)

- ・ ロゴマーク製作等は非常にありがたい提案であり、実施する方向で検討する。

7 KTCからの報告

○ホームカミング日の開催(資料7)

(KTC)

- ・ 10/26(土)ホームカミング日で、今年度も暁木会主催の「橋をつくる」講座をお願いしたい。場所は、工学会館南側になると思う。

(暁木会)

- ・ 阪神高速保有のレンガアーチの体験型コンテンツを使用できるか確認中であり、あらためて情報共有させていただく。

8 神戸大学からの報告

(大学)

- ・ 4月開催の業界説明会は、時間が少なく説明できる業種が限られると感じた。
- ・ インターンシップの申込が始まる5～6月頃から、学生の意識が高まってくる。4月時点では就職と言われてもピンとこないようだ。
- ・ これらの課題を踏まえ、プロジェクトマネジメント、公共施設工学の講義を統合したうえで、6～7月の3～4コマを業界説明に使えないかと考えている。
- ・ 3年後からは更にバージョンアップして、7～8コマへ拡充することも検討している。
- ・ OB会で授業の一部を受け持ってもらおうと助かる面もある。
- ・ 授業を受け持ってもらおうので、非常勤講師として登録してもらおうことになる。

(暁木会)

- ・ 業界説明会は、大学院進学や就職を考え始める一つの契機にはなったと考えている。
- ・ 大学の発展のために、OB会を活用していただければよい。人材は豊富だと思う。
- ・ 来年度から授業として行うなら、内容や人選等、早く準備する必要がある。
- ・ 業界説明会への参加を希望する企業は多いが、個々の企業のPRになると困る。
- ・ OB会として授業を受け持つのか、企業として受け持つのか、やり方を整理する必要がある。企業としてなら仕事として対応できる面もある。
- ・ 授業とするならコンセプトを明確にして、一過性ではなく継続できる内容にする必要がある。コンセプトは大学側から示してもらえれば助かる。
- ・ 建設事業の全体像を示したうえで、個々の業種の説明をする形がよいかもしれない。
- ・ 高規格道路事業等のプロジェクトを例にして、実際にインフラができあがるまでの過程を説明するのも一つの方法だと思う。

(KTC)

- ・ 卒業生からは、やはり就職に関する情報が欲しかったと聞いている。
- ・ 大学院1回生も情報を求めているかもしれない。